

梨の花

市川市立稲荷木小学校

〒272-0024 市川市稲荷木 1-14-1 Tel 376-5961

<http://www.toukagi-syo.ichikawa-school.ed.jp>

‘no rain, no rainbow’ ～コロナ禍に学ぶ～

校長 清田 博之

全国一斉の休校から1年半。コロナ禍はなかなか収束の兆しを見せません。学校の教育活動も制限のある中で工夫をこらしながら進めています。保護者の皆様のご家庭でも感染という恐怖と闘いながら日々の生活を送っていらっしゃると思います。

我々教育に携わる者は、コロナ禍の中ではありますが、その苦境の中にも学びがあることを子どもたちに伝えていく使命があります。医療従事者をはじめとして、多くの人が「for you（誰かのために）」という強い意志をもってその使命を果たそうとしています。

アイドルグループ「NMB48」の人気メンバー山本彩加さんもその一人です。彼女の姉は看護師をしており、家族への感染を心配してホテル生活をしたり、帰宅した場合にはシャワーに直行したりして、強い緊張感と誇りをもって患者の対応に当たっています。そんな姿を目の当たりにした彼女は、「自分にも何かできることがある」と、NMBを卒業し、姉と同じ看護の道へ進むことを決心しました。

何と素晴らし生き方でしょうか。彼女は言います。「応援してくれるファンがいることや、活動する場所があるということ」を当然のように思っていたが、それは勘違いで本当は壊れやすいものの上にあった。」と。自分を支えてくれる人たちの存在と感謝の気持ちを実感した瞬間だったのです。誰かのために自分の使命を全うしようとするその姿は、スポットライトを浴びるアイドルの姿よりも、さらに美しい光を輝き放つ気高い姿と言えます。

今はコロナ禍の真っ只中。土砂降りの雨が降っている苦しい時期です。そんな中で、山本さんのような気高い生き方をされている人がたくさんいます。‘no rain, no rainbow’ という言葉があります。雨が無ければ虹を見ることができません。

苦しい状況下だからこそ、見えてくるものがたくさんあります。学校では、感染症対策と同時に、そうした「for you」の生き方を子どもたちと一緒に学んでいきたいと考えています。ご家庭でも、コロナ禍の苦しさに対する不平や不満を口にするのではなく、気高い生き方である「虹」を見つけさせるとともに、大人である私たちが太陽になっていかななくてはなりません。



そして、今だけでなく、コロナが去った後も「for you」の気高い生き方を目指し、「雨」の中にあっても「虹」を求める強い意志を、子どもたちにとってほしいと強く願っています。皆さん、ともにそうした子どもたちを育てていきましょう。

緊急事態宣言中・緊急事態宣言後の学校生活について ②

前回、緊急事態宣言中の学校生活について書かせていただきましたが、変更した点や決定をしたことについて加えさせていただきます。

- ・教室の床のふき掃除は実施しますが、不特定対数が通行する廊下のふき掃除は原則控えます。（モップを使える場合は実施する）また、トイレ清掃についても、あまりにも汚れがひどくなるので、月・水・金だけ行います。
- ・登校前に軽い体調不良を訴えていて、登校後に熱があがるというようなケースが少なくありません。その場合は、体調不良のお子さんだけでなく、在籍している兄弟姉妹についてもお迎えに来ていただき早退していただくことになります。クラスターを出さないための措置です。登校前のお子さんの体調チェックを確実にお願いします。
- ・7月に実施予定で10月に延期された5年の林間学校は、「緊急事態宣言の延長が9月末まで」という政府の発表を受け、予定通り実施することにしました。しかし、緊急事態宣言が解除されても、5年生の児童の中にクラスターやクラスターの疑いのような症状が見られたら実施できません。無事、実施できるようお子さんの健康管理にご協力をお願いします。

☆市川市教育委員会から各学校長宛ての通達（抜粋）

※市内全体での2学期の子どもの感染報告は9月10日現在で10件です。夏休み40日間の感染者数は301件ですから、今のところペースダウンしています。

まだクラス内（学校内）で感染した事例は出ていませんが、いつ出てもおかしくないと考えた方がよいでしょう。

※土日休日の過ごし方

子どもの感染について、夏休みは家庭内感染と経路不明感染者の割合が半々でした。2学期も同様の傾向が続いており、1学期以前に比べて経路不明者の割合が多いです。

そこで、土日や今月のシルバーウィークが心配です。ショッピングセンターやフードコート、友人宅等で長時間過ごしたりすることで、経路不明感染者が増加してしまうことを危惧しています。公園で遊ぶ低学年の鼻出しマスクも気になります。

代表委員会による朝の挨拶運動がはじまりました。

今、代表委員会の児童が校門前に立ち「朝の挨拶運動」を実施しています。元気に挨拶できた人には、代表委員会のお兄さん・お姉さんからシールのプレゼントがあるようです。

「挨拶ができる」という事は、本校の目指す児童像の1つであり、また「人間関係を作っていくときの第一歩」でもあります。あたりまえの躰ですが、こうしたちょっとしたアクセントをつけることが習慣化には大切だと感じています。

